たちばな新聞

水谷山 寶清寺

お施餓鬼法要

七月十七日（日）十一時より

当山本堂にて厳修致します。

特に、新盆（死後、四十九日後に迎える最初のお盆）にあたる場合は、是非ご参列ご焼香下さい。塔婆供養を希望の方は、同封の専用ハガキにてお申込ください。塔婆のみのお申込も受付しております。

※お斎（お弁当）の用意があります。

※七月お盆期間中は、墓参用の生花を、管理寺務所に用意してあります。

日蓮聖人御書 第四十六回

『たぼら（誑）かされ候ぞ』

（光日尼御書）

故郷千葉県安房在住の光日尼から、子息弥四郎が亡くなった事を知らせる手紙に、日蓮聖人は弔意を示し、親子で互いに、正しい信仰に導き合うようになれば、死後も必ず救われると説かれた一文です。「たぼらかす」とは、他者を邪な道に誘うことで、その邪気によって、狂わされることを示しています。この狂いは自分の欲によって、さらに大きくなります。「たぼらかされない」ためには、正しい教えによって、自身の心の姿勢を保つことが大切なのではないでしょうか。

もしもの時は…まず何をしたらいいの？

前号で掲載しました永代供養墓、永代供養納骨堂についての問い合わせや申込みが予想をはるかに超える反響でした。主に時代の流れ、家族構成の変化により「終活」への意識が高まっているのだと改めて実感させられました。その中でも特に、「少しでも安心して生きたい」、「次の居場所を知っておきたい」、「子供達に負担をかけたくない」という声をよく耳にしました。引き続き、お墓の継承問題も含めお悩みのある方は、お気軽にご相談ください。いつでもお待ちしております。

今号では、実はあまり知られていない、『突然の不幸が訪れた時に、まず何をしたらよいか？』についてご紹介します。別れの悲しみは、誰もが驚きと悲しみに包まれて動揺し心が落ち着きを失ってしまうものです。まずは、宝清寺にご連絡ください。その後の段取りを共に進めて参ります。他霊園にお墓をお持ちの方や、たちばな墓苑にお墓のある他宗の方も必ずご連絡ください。葬儀社が決まっていない場合はお寺から紹介も可能です。できれば、もしもの時を想定して、葬儀の規模や式場、法号（一般的に戒名）など、生前にお寺やご家族の方と話し合っておくことが良いでしょう。

最近、葬儀社の中には、「菩提寺（先祖代々のお墓があり、法要を営むお寺）があるにも関わらず、葬儀社の紹介で他寺の僧侶がお勧めをする」ということがあるそうです。菩提寺の許可を得ず他寺の僧侶がお勧めをした場合、埋葬の際に大きなトラブルになることもありますので、十分ご注意ください。

また、葬儀式の傾向として家族葬が頻繁に行われるようになってきております。宝清寺の敷地内にも、家族葬に対応した式場たちばな会館第二ホール（三〇～五〇名）や水谷庵（三〇名以下）を完備しております。宿泊も可能です。少しでも「不安」を取り除いてこの世で生きることができますよう、共に寄り添って歩んでいきたいと切に願っております。

もしもの時は、必ずお寺にご連絡ください。例えば今すぐ出来ることとして、まず自宅の分かりやすいところや携帯電話に、宝清寺の電話番号（〇四二-五五八-二六六三）を掲示、登録することからはじめてはいかがでしょうか。

住職ひと口法話 第四十六回

私たちの先祖は熊本城だけではなく自然災害に知恵をしぼった。城の石垣を築く

熊本県で四月十四日午後九時二十六分に発生した最大震度七を観測した熊本地震被害は甚大で、今なお住まいもなく、テント生活をよぎなくされている人が多く痛ましい。そうした状況の中、県の象徴である熊本城も国の重要文化財である長塀が倒壊するなど被害をうけた一方、地震で倒壊しなかった「宇土櫓」に注目が集まった。加藤清正や四〇〇年以上前の築城技術を称賛する声がネット上に多く上がっていた。また、砂塵を上げながら崩落する様子が報じられた熊本城の瓦は固定せずに、地震が来た際に瓦を落とすことによって建物自体が倒壊しないようにするのが先人の知恵であり、建築技術通りとの指摘もある。

場合、西洋人は自然の力を征服しうると考え、掛かる力を撥ね返すだけ強力なものを築く。日本人の場合は、自然の力が人力を越えることをはじめから予測している。現在も多く残る城の石垣は、大小の石を粗積みするのは水を抜く利点もあるが、地震や波、風といった力が加わった場合に、それを撥ね返すことよりも、内部に吸収しながら、エネルギーを分散させるように作られている。自然を〝征服〟するのではなく、〝順応〟するのが日本人の知恵なのです。今、世界は人間が他者を受け入れない〝征服〟する考えからか、織りなす問題で危機的状況にあると言っても良い。日本人は〝順応〟する考えから、住みよい〝人間関係〟を作って来た事を忘れてはいけないと思う。

仏事 Q&A

Q、お盆とお施餓鬼は違うのですか？

A、お盆は、正しくは盂蘭盆会（うらぼんえ）と言い、亡くなった方やご先祖様が家に戻り、その期間を家族と一緒に過ごすという大変情緒豊かな伝統行事です。起源はいくつかの諸説がありますが、主に『盂蘭盆経』によります。それによると、お釈迦様のお弟子の一人であった目連尊者が、餓鬼道で苦しんでいた亡き母を救おうとお釈迦様の教えにより修行僧に行った供養法会が元とされます。

お施餓鬼は、施食会（せじきえ）ともいい、お釈迦様のお弟子の阿難（あなん）尊者の前に口から火を吐いている餓鬼が現れ、「お前の寿命はあと三日だけで、死んだら餓鬼道に落ちる。助かりたければ、無数の餓鬼たちにたくさんの食べ物を施せ」と言いました。恐れおののいた阿難に救いを求められたお釈迦様が、「この陀羅尼（だらに）（呪文）を唱えながら餓鬼に食べ物を布施しなさい。そうすれば少しの食事でも、たちまちにたくさんのおいしい食べ物となって、大勢の餓鬼を満足させることが出来る」と教え、それを実践した阿難は、寿命を延ばし、天寿を全うすることができたと伝えられています。

お盆に施餓鬼会をするところが多いので混同されがちですが、もともとはこれらは別物です。しかし有縁無縁一切の精霊にお釈迦様の教えと供物を捧げることで、その功徳が自家のご先祖様や故人への供養となります。お施餓鬼法要は、宗旨宗派問わずどなたでもお参りできます。施しの大切さを知り、皆が共に生きていくことの温かさや豊かさを感じていただけるよう、ぜひご参列ください。

発行　寶清寺　東京都あきる野市小川１０１　電話 042-558-2663　FAX 042-558-2693

日蓮聖人伝

「預言者の自覚」

法華経のなかに「勧持品第十三」という章があります。「勧持」とは、持つ（保つ）ことを勧めるという意味です。

その内容は、お釈迦様の教えをどのように護持し弘めていくかといったもので、「勧持品第十二」の中で、お釈迦様が法華経の教えを弘めるように聴衆（菩薩）に要請され、弘める者の功徳を説かれたことを受けて、聴衆が応答したものです。

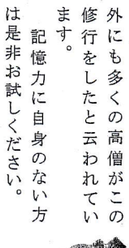
その一部を見てみますと、

「末法の世に、多くの恐怖が起こり、悪鬼が自身に入り悪行しても、我らは仏様を敬い信仰の鎧を着て、法華経の教えを弘めるために多くの困難を耐え忍び、身命を顧みず、この上ない教えを惜しみ、来世にても世尊から委嘱された法華経を護持します。また、末法の悪僧から誹謗中傷や排斥を受け、寺から追い出されようとも、仏様の思し召し遂行のために堪え忍びます」と述べられています。

日蓮聖人はまさに、末法の世において、「勧持品の聴衆（菩薩）」のごとく、堅い決心のもと、お釈迦様の真意の教えである「法華経」を弘める使命があることを自覚されました。

しかし、法華経の内容には「この教えを弘める者には、大いなる迫害や困難に遭遇する」と予言されており、法華経弘教の第一声を発したとたん、清澄寺に居られなくなってしまったのです。

当時、流行していた念仏や禅宗の批判をしたこともあり、地頭の東条景信の怒りをかい、生命の危険にさらされた聖人は、兄弟子の浄顕房や義浄房らの案内によって清澄寺から約七キロ先にある、花房の蓮華寺に難を逃れられたのです。その後、この地を離れるにあたり、聖人は実家を訪れ両親を得度し、父妙日、母に妙蓮と法号を授け、別れを惜しむいとまもなく鎌倉弘教の旅に出発されたのでした。



「日蓮聖人伝」の中で以前に述べたことがありますが、日蓮聖人は「日本一の智慧者としてください」と清澄寺の本尊である虚空蔵菩薩に祈願をし二十一日間におよぶ不眠不休の行をいたしました。二十一日の満願日に「明星の如くなる大宝珠を賜り右の袖にうけとり候」と記されています。

虚空蔵菩薩は「智慧や知識が虚空にある蔵の如く備わっている菩薩」といわれ、知恵や記憶力の向上がご利益といわれます。

また、修行法に「虚空蔵求聞持法」があり、虚空蔵菩薩の真言「ノウボウ アキャシャ ギャラバヤ オン アリキャ マリ ボリ ソワカ」と百万遍唱えると、あらゆる経典や事象を記憶し、忘れることがない記憶力が身につくと云われ、日蓮聖人以外にも多くの高僧がこの修行をしたと云われています。

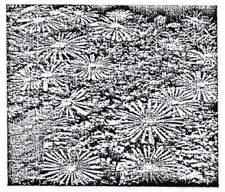
記憶力に自身のない方は是非お試しください。

宝清寺の草花

松葉菊とは、読んで字のごとく、「松の葉のような菊」に見えることが名前の由来だそうですが、この花は松や菊のどちらにも属さない花なのです。しかも、松葉菊という特定の名称の花もなく、通称「松葉菊」と呼ばれているだけなのです。

花を販売している店先で、開花している姿をよく見かけますが、開花時期は四月上旬から八月下旬と長期間に渡ることから、販売店でも売りやすく、人気がある理由かもしれません。原産地は南アフリカです。砂漠などに自生する多肉植物で、サボテンのような肉厚の葉をしています。

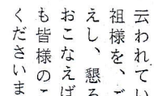
宝清寺では、休憩所の駐車場から坂を下りる途中や、垣根の下側に群生しており、日本の風土にもよく順応し、外来種とは思えない日本的な花のようにも見えます。



お施餓鬼法要

本年のお施餓鬼法要は七月十七日（日曜日）十一時より開式いたします。ご参列、ご焼香頂けます方は十時三十分までに本堂にご入堂いただけますよう御案内申し上げます。

本年が新盆にあたられ、葬儀中にお供えした白木位牌（仮位牌）を当寺にお預けされた方は、位牌を本堂内陣にお供えし、懇ろに御回向いたしますので、御来寺され、ご焼香頂けますよう御案内申し上げます。



お盆

宝清寺では、お盆の時期に皆様のご家庭に伺う、お経周り（棚経）を行っております。

本年の七月盆のお経周りの時期は七月二日（土）より七月十六日（土）までです。

また、八月盆のご家庭は、八月十三日（土）から八月十六日（火）にお伺い致します。

お盆には、御先祖様が自宅に帰ってくると云われています。御先祖様を、ご家族でお迎えし、懇ろにご供養をおこなえば、御先祖様も皆様のことをお守りくださいます。

日蓮聖人は、御仏の言葉である「法華経」を深く理解しただけでなく、それを実践し、かつ釈尊の予言されたごとく多くの法難に遭遇され、耐え忍ばれました。

書物を深く読むことを熟読と言いますが、聖人は法華経を、ただ理解するだけでなく、体験的に落命の瀬戸際にさらされたことにより色読したと言われています。このことにより、釈尊の予言を、末法の衆生に伝える使命を帯びた菩薩であることをご自覚され、艱難辛苦を乗り越えて、末法の世の我々に今もなお救済の手を差し伸べられているのです。

編集後記

今回、日蓮聖人伝の題名に「預言者」という言葉を使用しました。

ヨゲンシャには「予言者」と「預言者」があり、前者は未来の事象や意思を予告する者をいい、後者は神仏の啓示や解釈などを他者に伝える者をいいます。

「予言者」も「預言者」も共に尊崇される聖者の言葉として扱われ、同じ発音であることも相まって、二つのヨゲンシャはしばしば混同され使用されることがあります。

発行・日蓮宗水谷山宝清寺
住所・東京都あきる野市小川一〇一
電話・〇四二一五五八一二六六三
FAX・〇四二一五五八一二六九三
インターネットホームページ
http://www.ub.auone-net.jp/housei/
メールアドレス
housei@ac.auone-net.jp

宝清寺では、花祭り（灌仏会）、お盆（盂蘭盆会）の施餓鬼法要、日蓮聖人のお会式を毎年盛大に厳修しております。このほかにも諸祈願や自動車のお祓いや、年忌供養・祥月命日供養・月命日供養等も行っております。詳しくは寺務所までご相談ください。

御祈願一覧表

交通安全
商売繁盛
虫除け
開運祈願
安産祈願

日蓮宗の聖日

二月十五日	釈尊涅槃会
二月十六日	宗祖降誕会
四月八日	釈尊降誕会
四月二十八日	立教開宗会
五月十二日	伊豆法難会
五月十七日	身延御入山
七月八日	本尊始頭会
八月二十七日	松葉谷法難会
九月十二日	龍ノ口法難会
九月十八日	池上御入山
十月十三日	宗祖御会式
十月十二日	小松原法難会

宝清寺年中行事

三月彼岸中日	塔婆供養
四月八日	花祭り
七月十七日	盂蘭盆供養
七月十七日	施餓鬼法要
九月彼岸中日	塔婆供養
十月十二日	お会式法要